

特集

# 国立大学法人



**丸本 卓哉**  
教育・国際担当副学長

## 1. 中期目標・計画と国際センター

国立大学法人になるに当たって、山口大学の国際化についての考え方、つまり国際戦略を協議し、とりまとめたものを山口大学の中期目標及び中期計画に述べています。要約すると、

[中期目標]

- ・ 交流協定の締結と人的交流の促進
- ・ 世界の人々とのパートナーシップ形成
- ・ 世界で活躍する人材育成
- ・ 東アジアとの教育研究上の交流推進

[中期計画] ～中期目標の具体的方策～

- ・ 留学生交流や教育研究交流の推進
- ・ 教育研究活動に関連した国際貢献の推進

などですが、これらを具体的に実施するために、山口大学では従来別々に活動していた大学教育機構

の「留学生センター」と総務部の「国際企画課」とを統合して、一体的、協力的に運営し、充実させることを目的に、「国際センター」を平成16年4月より発足しました。また、中期目標に述べている東アジアとの交流促進のために、中国や韓国の拠点校になり得る大学との交流協定締結を促進し、学生の留学受入や修学派遣及び研究者の交流や共同研究、国際シンポジウムなどの開催、企画を行っています。そして、これらの実施を効果的に行うために、国際協力機構（JICA）や国際協力銀行（JBIC）等の事業へも積極的に参加し協力する方針を打ち出しています。

## 2. 環境ネットワークの設置

現在、国際的な協力や共同研究のキーワードのひとつは「環境」です。環境は自然環境、社会環境、人間環境・・・と各種あって、人類と地球のすべての生命体に関わる言葉です。つまり、分野を問わない共通語であることを示しています。そこで、山口大学では今年4月に全学的なバーチャルサロンとしての「山口大学環境ネットワーク」を組織しましたが、これを山口地域の産学公民のネットワークへ、さらに東アジアのネットワークへと発展させてい

きながら、山口大学の国際化と国際協力及び国際共同研究や教育交流を促進できればと考えています。

## 3. 外国語運用能力と異文化理解力

また、国際的に活躍できる人材育成に欠かせないのは実践的な外国語運用能力と異文化理解力の涵養です。そのためには在学中に外国語運用能力、なかでも英語実践力を高めることが重要ですが、全学的にTOEICを利用した英語学習法を導入したことにより、学生の意欲が高まっています。さらに、中国語及びハングル等についての実践力をつけるために、中国や韓国の協定締結校への海外短期語学研修にも力を入れていますが、研修成果と異文化理解も着実に進んでいます。これは、山口大学の東アジアにおける国際戦略の特徴になるもので、今後大いに期待ができるでしょう。

学内連絡先  
TEL&FAX:  
083-933-5039  
E-mail:  
marutaku@yamaguchi-u.ac.jp

# 山口大学の国際化



東アジアにおける国際戦略



学術交流協定の締結状況

詳しくは山口大学ホームページ (<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>) の「大学紹介」の中の「数字で見る山口大学」・学術交流協定をご覧ください。

## “成熟”へ向かって歩き出した



宮崎 充保  
国際センター長

### 国際化の指標

12世紀のスコラ哲学のフーゴーは以下のような思想を21世紀の私たちに残しています。

故郷を甘美に思う者は、まだくちばしの黄色い未熟者である。あらゆる場所を故郷と感じられる者は、既にかかなりの力を蓄えた者である。全世界を異郷と思う者こそ、完璧な人間である。

何につけ、“国際化”や“グローバル”という言葉があればいかにも先端的だという感じを持ちます。しかし、12世紀にも、いや、どの時代にも、こうした言葉は現代的であり、存在したと考えられます。しかし、フーゴーはそうした言葉を用いずに、世界に対する視野の広さ、世界に対する向き合い方を教えてくれています。ここに真の国際化、ひいてはグローバル化の真骨頂がすべて込められていると私には思えます。

「国際」という言葉を用いる限り自分の在所を忘れることはできません。国際化は国境があること

を前提に利害のひしめく国境を超えて共存共栄を図る動きです。

「グローバル化」は視点を地球の外において地球を一つの球に見立てます。国境のない全体が一つとしてそれ自身の生存と繁栄を追求する動きです。このあたりの弁別が21世紀の“国際化”の指標ではないでしょうか。

### 共有される創造 そして蓄積

国立大学法人山口大学になって、山口大学は自分の力で“何を、どう考え、どう表現（実践）するか”——山口大学の理念である「発見し・はぐくみ・かたちにする」そのものです——を本格的に問われることになりました。自主が認められるのは自由を認められることです。しかし、自由を知る者はそのための不安定も知っています。縛られての安定と解き放たれての不安定を考えると、日本の国立大学は後者へ加担することになったのです。私は自主、自立、自由は不安定であるがゆえに創造の根源的な力だと考えます。

その第一歩として、これまでの留学生センターの留学生業務に加えて国際企画業務が加わり、改めて「国際センター」が誕生しました。ここを通して、日本に学びにやってくる外国人、外国へ学びに出かける日本人が留学生になり、それぞれ異郷人になります。そして、自分や自国になかったものを学んで故郷へ戻ります。故郷に戻るときに、どちらの場所も“故

郷”だと考えられるようになれば「かなりの力を蓄えた者」になっているはずで、共存共栄の図がそこに描けます。

国境を超えた学術交流も文化交流も、一つのことに特化した自分や自国が持っていない知識そして知恵を異郷で蓄積したり、共同で作り出す過程です。そして蓄積として共有する。共有が一気に国境線を消してしまいます。

### 成熟へ向かって

この蓄積がさらに広がって行けば、もう、どこも故郷でありどこも故郷ではなくて、どこも“異郷”に思えるようになるでしょう。つまり、地球を外から視る知の力を持つからです。フーゴーの言う「完璧な」、言い換えれば“成熟”が期待できるはずで、

ここまで考えが及ぶと、もう国立大学法人山口大学の国際化のあり方は自明です。

“長州五傑”（※注）を先駆者とする歴史を持つ山口大学は中期目標の中で「インターナショナルキャリアアッププログラム」を掲げて自らを世界へ開放しようとしています。世界の大学との協定を通して多くの留学生を送り出し、受け入れる体制作りをしています。「留学生支援プログラム」を展開して安全で健全な山口での留学の意義を深めます。研究面では「国際共同研究支援プログラム」のもとに東アジアを焦点に置いた学術交流を推進して活気ある東アジアの学究に貢献します。さらには、国際協力機構（JICA）、国際協力銀行（JBIC）などと連携を取り、その貢献は「国際協力プロジェクト推進プログラム」によ

って実践されます。「国際会議支援プログラム」はこの秋に予定されている環境ネットワークの国際シンポジウムへ向けて始動しました。開発途上の国々に対しては「国際貢献協力プログラム」を通して教育の向上、産業育成への協力をします。

こうしたプログラムのもとの実践が“成熟”へ向かう、すなわち山口大学の法人化以後の自由と自立への道、「かなりの力を蓄えた」大学への道だと言えます。

## 黄色いくちばし

最後に、国際交流にまつわる私の事例を紹介します。4月下旬、教育国際担当の丸本副学長他3名の私たちは、協定校である韓国外

国語大学校および仁荷大学校の創立50周年祝賀典に参加しました。新任センター長の私は同職責の担当者には目と頭が向いていました。しかし、その間それ以上に私の気を惹いたのはわれわれ外国人招待客を接待するスタッフの人たちでした。仁荷大学校ではstaffとだけ記したネームプレートを胸に、対外協力チームの洪（ホン）チーム長、金（キム）チームメンバーを始めとする面々が、祝賀の華やかさの陰で携帯を片手に四六時中連絡を取りながら私たちと密着行動をして奔走されている姿を見逃すことはできませんでした。帰国前夜の別れ際に、金さんは握手と共に“When will you come next time?”（今度はいつおいで

ですか—— When will you be coming next time?と遠回しに言わないで相手の心中にずかっと入ってきて）声を掛けてくださいました。私はとっさに“As soon as possible.”（できるだけ早い折に）と答えてしまいました。なぜ、“When will you come to Japan?”（キムさんたちこそ、いつ日本においでですか）と言えなかったのでしょうか。私の「力の蓄え」の無さをいまさら嘆いても、淡い春の空がむなしくあるばかりです。

学内連絡先

TEL:083-933-5584

E-mail:

mmiya@yamaguchi-u.ac.jp



韓国外国語大学校50周年祝賀典



仁荷大学校対外協力チームのメンバーと  
（後列左から2番目金さん、その右隣は洪チーム長、  
左端丸本副学長、前に小谷東アジア研究科副研究科長、  
右端筆者）

### （※注）

〈朝日新聞 2004.1.1より〉

幕末期、長州藩から密航した5人の若者がいた。目的地はロンドン。英国では後に「長州ファイブ」と呼ばれた。彼らが学んだ多くの英知は、明治維新の原動力となり、近代日本の揺籃期ようらんを支えた。

### 長州ファイブ

伊藤博文 (1841～1909)	初代内閣総理大臣
井上 勝 (1843～1910)	初代鉄道局長官
井上 馨 (1835～1915)	初代外務大臣
遠藤謹助 (1836～1893)	造幣局長
山尾庸三 (1837～1917)	工部卿、法制局長官

## 山大国際化における国際センター教員が果たす役割



**渡辺 淳一**  
国際センター教授

「国際化」という言葉を耳にするようになって久しい。私たちを取り巻く日々のさまざまな場面で「国際」という言葉を耳にします。企業では国際戦略だとか国際取引などと言い、県や市などの公的機関の中にも「国際」を冠した部局や組織が作られています。大学もその例外ではありません。山口大学の中を見渡すと、国際理解、国際交流、国際経済、国際シンポジウムといった「国際」の言葉のついた部局名、学科名、授業科目名、学会名がたくさん目に入ります。今年4月の大学の法人化に合わせて、山大にはもう一つ新たに「国際」を冠した組織、「国際センター」が誕生しました。

「国際」や「国際化」、そして、大学の国際化というのは一体何なのでしょう。どうすれば大学が「国際化」していると言えるのでしょうか。大学の「国際化」というときすぐに思いつくことは、海外の教育研究機関と研究協力や研究者の交流があること、海外からの研究者や留学生を受け入れること、一般学生を海外の教育

研究機関に派遣すること、などでしょうか。今年新しく誕生した国際センターは、そのすべてと関係しているといっていると思います。

大学には大学全体としての理念と目標があるように、大学の国際化についてもその理念と目標が明確にされていなければなりません。国際センターはその理念・目標を実現するための実働組織として作られた組織です。

国際センターには現在センター長をはじめ5人の専任教員がいます。そして、私たち教員は山口大学の国際化の理念と目標を実現するために策定された計画を実行に移す役割を担っています。国際化の理念と目標実現のためのセンターの業務は、大別して①海外の研

究教育機関との交流促進、②山口大学に在籍している留学生支援、③山大の一般学生の海外の研究教育機関への派遣、があります。私たち教員は、特に、②の留学生支援と③の一般学生の留学支援に日々従事しています。具体的には、留学生支援では、日本語の指導、留学生が山口で安心して勉学に励むことができるよう生活面の支援、勉学にとどまらず日本の文化をも体験してもらうためのプログラムの立案と実施、また、学内外の多くの人たちとの交流の機会を設けること、などがあります。一般学生の留学支援としては、留学に関する相談、留学情報の提供、大教センター・外国語センターと連携した「短期海外語学研修プログラム」の立案と実施があり



徳地での研修に参加した新留学生

ます。山口大学は現在世界の16大学と大学間協定を結んでいます。短期海外語学研修プログラムの派遣先はすべてこれらの協定校で、安心して山大生を派遣することができます。現時点では、英語(カナダ/リジャイナ大学、アメリカ/ハワイ大学)、ドイツ語(ドイツ/エアランゲン・ニュルンベルク大学)、中国語(中国/北京師範大学・山東大学)、韓国語(韓国/仁荷大学校・外国語大学)の研修を実施もしくは実施を

予定していますが、将来はより多くの語学研修を実施できるように検討しています。また、協定校との交流事業として韓国の公州大学校と学生交流を実施しましたが、さらにこのような学生交流を拡大することも検討しています。

私たち教員は、大学の国際化の理念と目標を具体化するための計画を実践する国際化の最前線にいるという自負を持っています。いかに立派な理念・目標があってもそれを実現することができなけれ

ば意味を持ちえません。大学の理念と目標に意味を持たせる重要な役割を担っていると私たちは考えています。

学内連絡先

TEL:083-933-5984

E-mail:

junichiw@yamaguchi-u.ac.jp



ハワイ大学の研修に参加した山大生



卓球を楽しむ留学生達

## まっすぐ。山口大学



**岡崎 房述**  
学務部国際企画課長

### 中期計画とプログラム

山口大学の行う国際交流にはさまざまな種類の活動があります。主なものは、教職員の派遣や受入、研究者や学生の交流、国際共同研究、国際会議の参加・開催、国際貢献や国際協力、地域における国際交流などです。

法人化後の中期計画では、これらの国際活動を実施するために、国際共同研究を推進し支援するプログラム、国際会議等の開催を支援するプログラム、教職員を海外に派遣する事業などのプログラムをにかけています。今後は、これらのプログラムを実現するための年度計画や詳細なアクションプランを実行してまいります。

### 国際交流の事務組織

法人化にあわせて、山口大学の国際化を総合的・戦略的に推進するために大学教育機構に国際センターが新しく置かれました。国際センター長の下には、国際企画交流部門と留学生部門にそれぞれ主事が置かれ、3人の主事とともに、国際センター教育職員が国際セン

ターの業務をそれぞれ担当することになります。

事務組織としては、国際企画課が留学生課とともに学務部に所属することになりましたので、国際センターと一体となって、学内の関係機構や部門と連携し、新しい山口大学の国際化と国際交流の中期計画を総合的・機能的に推進してまいります。

### 国際交流活動の課題

今日の山口大学は長い歴史と環境の中ではぐくまれ、そして偶然に現在という時間の中で法人化という現実と直面いたしました。このような時代にわたくしたちが置かれたことは避けることのできないものであります。そして、新しい山口大学は、これらの国際交流の目標を実現することにより、次の時代に自らを伝えていかなければなりません。

このために、一層多くの外国の大学や研究機関と学術交流協定を締結し、国際的な共同研究と研究者や学生の交流を推進してまいります。これらの交流が活発になればなるほど、そのための資金と人が必要になってまいります。

いかに外部資金を獲得し、有能な人材を確保するかが法人化後の国際交流の大きな課題になります。多くの研究者や留学生を受け入れるためには、外国の大学のように十分な宿舍の確保など生活環境の整備も必要になってまいります。

### まっすぐ。山口大学

「私は、私と私の環境である。」(Yo soy yo y mi circunstancia.) 近代スペインの思想家オルテガはその著書の中でいいました。

そして山口大学の理念は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」、新しい山口大学のシンボルマークはグリーン色、そのイメージは「まっすぐ」です。

わたくしたちは、法人化を新たな出発点として、国際センターや山口大学、そして「環境」としての地域や世界とともに、「まっすぐ」山口大学の国際交流の目標とアクションプランを実現してまいります。



YAMAGUCHI UNIVERSITY  
**山口大学**

学内連絡先  
TEL:083-933-5026  
E-mail:SH033@office.cc.  
yamaguchi-u.ac.jp

## 山口大学の学生国際交流を支える



石橋 公夫  
学務部留学生課長

### 留学生課が設置されて

山口大学には、平成16年4月1日現在25か国295名の外国人留学生在籍しています。平成12年173名であった外国人留学生在が近年飛躍的に増加したのも本学の国際化への積極的な取り組みの成果といえます。

平成13年4月に山口大学留学生センター・留学生課が設置されました。これにより、今まで共通教育で実施していた日本語・日本事情の教育を留学生センターの教官が担当することになり、留学生の日本語教育が系統立てて実施できるようになると同時に様々な取り組みが始められ、その一貫として入学直後の留学生を対象に、山口での生活や勉学に早く慣れて貰うべく、新留学生研修会を5月、10月の年2回実施することとしました。交流ボランティアの日本人学生の協力を得ての1泊2日のプログラムは、日本人学生の異文化理解、国際交流意識の向上にもつながっていると思います。また、学部別に実施していた見学旅行も全学でまとめて実施することにな

り、バスを連ねての見学旅行は、日本の歴史・文化体験のみならず3キャンパスの留学生の交流に大いに役立っています。その他山口大学教育研究後援財団の助成を得て、日本文化を体験させるために書道、生け花の講習会、中国経済産業局と連携した地元企業での研修会も軌道に乗ってきました。これからも充実したプログラムを多くの留学生に提供できるよう心がけていきたいと考えています。

### 学生の国際交流

受入留学生の急激な増加は、外国の大学との大学間・学部間学术交流協定締結によるところが大きいと言えます。日本留学フェア等への積極的な参加も、東アジアを始めとする留学生の増加にも影響しています。協定校の増加は海外派遣にも大きな影響を与えているようで、短期語学研修を経験した学生が1年間の留学を希望するケースも多くなっています。リジャイナ大学を始めとする短期語学研修での経験がいに充実し、更なる意欲を駆り立てるものであることが伺えます。

### 今後の課題

本学が留学生を受け入れる場合、まず問題になることが滞在中の宿舎です。国際交流会館の入居は、交流協定校の留学生受入を優先していますので、大多数の留学生が民間施設に入居しているのが現状ですが、入居に際しては保証人制度を始め様々な制約がありま

す。これらの障害を軽減するために大学が機関保証をすることで支援できるよう基金の準備を進めているところです。

本年4月から山口県職員宿舎を留学生用宿舎として2戸お借りすることができました。入居した学生は周囲の方々に温かく受け入れられているというお話を聞き大変嬉しく思いますとともに、関係各位のご厚意に紙面を借りて感謝申し上げます。

短期留学、長期留学あるいは研究者の受入のための学内整備に努力することはもちろんですが、地域・自治体の方々にも更なるご理解ご協力をいただけるよう努力をしなければなりません。

留学情報提供も重要な業務ですので情報ラウンジを整備し、必要な情報がタイムリーに届くようシステム化も必要です。

学生が相互理解を深めながら国際感覚を身につけていけるような機会が増えていくことが諸外国との友好信頼関係の発展に繋がります。留学生を通じた山口大学の国際交流推進により支援できるよう留学生課として取り組みを進めたいと考えています。

#### 学内連絡先

TEL:083-933-5981

E-mail:GA141@office.cc.

yamaguchi-u.ac.jp



## TOPICS

## サイエンスワールド

## サイエンスワールド:理学部の地域社会への窓口

■ 今岡 照喜 「サイエンスワールド2004」実行委員長 理学部教授

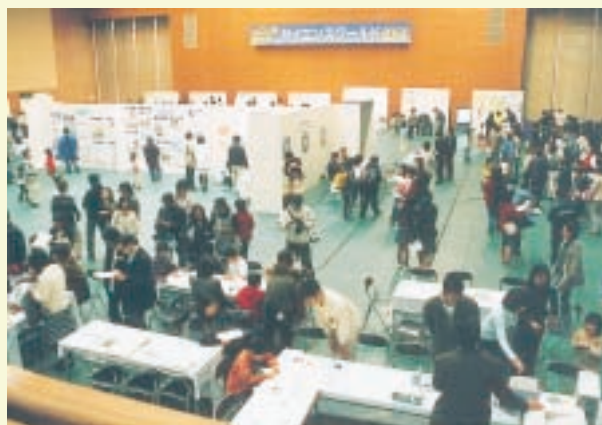
## はじめに

理科離れがさげばれている中、自然科学へ関心をもってもらおうと、理学部は、3月14日(日)、「サイエンスワールド2004」を山口県スポーツ文化センターで開催しました。当日は天候に恵まれ、会場は、1100人を超える家族連れなどで賑わいました。参加者は科学展示・実演コーナーに積極的に参加され、熱心に講演を聴講されました。主催者側は会場に溢れる熱気に地域貢献事業としての確かな手応えを感じるとともに、多くの市民とのふれあいやアンケートを通して、市民の貴重な意見を聞くことができました。この小文ではアンケートの集計結果をまじえて、事業の概略について報告します。

## 背景と目的

理学部における先端的研究や生活にかかわる研究例などを広く市民や中・高校生に紹介する試みとして、平成11(1999)年3月、「理学部先端科学フェスティバル」が開催されました。この催しは翌年より「サイエンスワールド」と改称し、今年が6回目の開催となります。今年も、この催しが、小・中・高校生ならびに市民の皆様にとって、科学を楽しみ、親しみながら理解する場となり、さらに、大学で行われている研究の一端を理解していただき、若い芽が育つ機会となることを願って開催しました。

「サイエンスワールド2004」は、高校生向きの出前カレッジ(出張講義)や1日体験入学などとともに理学部の公開総合事業である「サイエンス・ミニ・カレッジ」の中の一つの企画として実施されたものです。この企画は、文部科学省の平成15年度大学改革推進等経費「理工系教育推進経費」および理学部長裁量経費に加え、理学部後援会と鴻理会からの補助、地域の教育委員会、学会支部、新聞社、テレビ局などの後援を受けて開催したものです。



会場ようす

## 内容

主なコーナーは、1) 科学展示・実験、2) 講演、3) 科学なんでも質問コーナー、4) 理学部紹介コーナー(研究室パネル紹介、理学部紹介ビデオ放映)からなります。

レクチャールームに設営された24の科学展示・実験ブースでは、理学部の六つの講座(数理科学、物理学、情報科学、生物科学、化学、地球科学)の教員や学生が、それぞれの分野の研究の一端や興味深い科学現象などを来場者の参加型実演などで分かりやすく紹介しました。さらに、今回は、岩国高、山口高、萩高、厚狭高および防府市青少年科学館からも特別出展していただきました。高校生ならではの面白いアイデアで多くの参加者を引きつけていました。展示のテーマは以下のようです。

計算機によるシミュレーションと折り紙飛行機、規則がわかるかな、算数バーチャルタウン:広中平祐先生がやって来た、磁石の不思議、宇宙からくる電波を見よう、電気が流れなくてもいいんだよ:絶縁体の性質と働き、分子シミュレーションの世界、体験:モーフィング、音の不思議発見、バイオインフォマティクス、ワイヤレスコンピュータネットワーク、カエルの発生、粘菌の世界、蛾の行動を見る、マイクロバ

# TOPICS

ブルによる水質改善、入浴剤の化学、液晶ペンダントを作ろう、地球最古の岩石を求めて、空から見た山口県、山口県の化石、サイエンスショー:科学現象をショー形式で実演する、交流モーター・光通信・燃料電池、ミニ百葉箱で気温と湿度を測ろう、ピコピコカプセル、バランスボード、メダカの生態、植物の不思議。

当日の記録写真は理学部のHP (<http://www.sci.yamaguchi-u.ac.jp/sw/sw2004/>) でご覧いただけます。アンケート集計結果では、「実体験コーナーや展示はいかがでしたか?」の問いに対して、「分かりやすく興味をもてた」とする回答が50%、「難しかったが、興味をもてた」が37%であり、多くの参加者に興味をもってもらえたようです。

視聴覚室では、「ブラックホール」、「水資源と水質汚染」、「鳴き砂」をテーマとした興味深い三つの講演が行われ、延べ約150人の方々が熱心に聴講されました。「科学なんでも質問コーナー」では、すぐに答えが出なくても、後ほど調べて連絡するようにしました。また、「クイズラリー」は展示物やパネルの中に隠されているヒント(答え)を探すことによって展示をよりしっかりと見てもらうことをねらったもので、全問正解者にはアウトドアで便利な「アクティブペン」を賞品としてプレゼントしました。この企画は主催者側の予想を超えて盛り上がり、468人が全問正解しました。



楽しく説明する学生たち

## 成果:244人のアンケートの集計結果から

### 1.自然科学の普及活動として有意義であったか?

「今後このような行事が開催された場合に、来場します

か?」の問いに、「来場したい」と答えた人が66%、「内容次第で来場する」と答えた人が23%でした。自由記述欄には以下のような回答があり、自然科学への動機づけや普及に大いに役立ったこと、学生をはじめとするスタッフの説明や対応が来場者に評価されていることが窺えます。

- ・小学生でも参加できる内容で、理科好きの子どもをたくさん作る良い取り組みだと思います。次回も是非参加したいです。(39歳教員)
- ・子供と参加させて頂きましたが、科学に楽しく興味を持ってたようです。(44歳主婦)
- ・市民にとってはありがたい企画です。是非続けていただきたい。(47歳教員)
- ・今まで知らなかった事がいろいろ分かってとても勉強になりました。またこのようなきかいがあったら参加したいです。(11歳小学生)
- ・親子連れで参加できるサイエンスワールドは、得るものがとても多いと感じた。科学についての知識が増えたり、身近なことに目を向けることができたり、(中略)いつかドカンとでっかい発見、発明が山口大学理学部から生まれることを想像しながら、楽しく見させていただきました。ありがとうございました。(26歳会社員)
- ・答を教えるのではなく、ヒントを与えてくれて、子どもに考えさせてくれた点は良かった。(38歳教員)
- ・お疲れ様でした。学生さんがよくがんばっていました。(34歳)
- ・初めて来場しましたが、とても楽しかったです。特にスタッフの方が親切に説明をして下さって子ども達も楽しく過ごしていました。来年も来たいです。(40歳主婦)
- ・どの学生さんたちも親切に教えてくださり、高校の理科の授業を思い出しました。(34歳主婦)



山口市仁保32m電波望遠鏡で銀河中心部のようすが観察できる！  
最先端研究を熱く語る藤沢助教授

# T O P I C S

## 2.「サイエンスワールド」の地域社会への定着

この事業を最初に開催してから6年目を迎え、アンケートに寄せられた市民の声やマスコミ関係者との話などから、市民の間には、「理学部→3月→サイエンスワールド→親子で科学のお勉強」というイメージが定着してきつつあるように思われます。熱心なリピーターも多く上記アンケートの記述のように、継続を望む声は多いようです。

## 3.理学部のアピール

「山口大学理学部をご存知でしたか？」の設問に、「以前から知っていた」と回答した人は69%で、「この行事で今日始めて知った」と回答した人が29%でした。

さらに、「山口大学理学部に興味をもって頂けましたか？」の設問に、「非常に興味をもった」と回答した人が30%、「興味をもった」と回答した人が55%、「興味もてなかった」と回答した人が15%でした。

と回答した人が5%でした。

アンケート回答者の29%にこの行事をとおして理学部を知ってもらい、85%以上の人に興味をもっていただいたことは、このプロジェクトの大きな成果と考えられます。

## おわりに

山口大学理学部は、地域社会に根差し、地域住民と連携した教育・研究を行う開かれた学部を目指しています。基礎科学の分野から地域社会に貢献することを意図して企画されたサイエンスワールドは、まさに理学部と地域住民をつなぐ貴重な窓口となっています。

学内連絡先  
TEL/FAX 083-933-5765  
E-mail: [imaoka@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:imaoka@yamaguchi-u.ac.jp)



高校生もスタッフとして大活躍



泡の出る入浴剤をつくる子供たち  
この中から将来の化学者誕生か？！

## TOPICS

## 竣工記念式典

## 山口大学小串総合研究棟竣工記念式典について

■ 筒井 悟 医学部総務課総務係長



平成16年3月29日(月)、山口大学小串総合研究棟竣工記念式典が開催されました。同研究棟は、日本初の医学と工学が融合した大学院施設、医療技術短期大学部から保健学科への移行に伴う整備及びオープンラボによる先端的教育研究のためのスペースの確保・整備、高度医療技術者の育成、最先端医療機器等の開発・研究を目的として建設されたものです。

当日は、心配された雨も降らず、テープカットの行われた午後4時頃には、薄日さえさすようになり、無事に行事を進行することができました。

## ◎テープカット

テープカットは、午後4時から、加藤学長、石原医学部長、永島文部科学省大臣官房文教施設部広島工事事務所長、岩田医学部保健学科検査技術科学専攻長、谷澤医学研究科応用医工学系独立専攻長及び松山事務局長の6名で執り行われました。総務課長のかけ声のもと、6名が一斉にテープをカットし、総合研究棟の将来に向かう扉が開けられました。

## ◎記念式典

次に、午後4時15分から、研究棟1階大講義室において、記念式典が挙行されました。記念式典は、総務課長の進行により行われ、加藤学長の挨拶に始まり、永島文部科学省大臣官房文教施設部広島工事事務所長、瀬村山口県総務部学事文書課長及び藤田宇部市長による来賓挨拶、施設部長による施設概要説明がありました。

## ◎施設案内

その後、16時45分から研究棟内の施設案内があり、1階から8階まで参加者が自由に施設を見学し、各担当の者に施設機器等についての質問をしていました。

## ◎祝賀会

最後に、午後5時から、祝賀会が研究棟1階ラウンジにて開催され、石原医学部長の挨拶の後、沖田医学部附属病院長による乾杯の音頭で祝宴が始まり、式典の参列

者が総合研究棟の完成を祝いました。約1時間の祝宴の後、岩田医学部保健学科検査技術科学専攻長の締め乾杯の音頭で祝宴は終了しました。

## ◎モチーフ

山口大学小串総合研究棟のモチーフを紹介します。

- ・1階は、南側道路からのアプローチとホスピタルゾーンからのアプローチの交点となる空間を快適でゆとりのある玄関ホールとラウンジを設置しました。
- ・サービス動線は西側とし設備スペースを確保し、東側の真締川護岸整備による広場の眺望を考慮しました。
- ・外観は、病棟の色調を継承し、調和されたデザイン計画としました。
- ・エレベーター1基・身障者用便所2か所・身障者用スロープ1基を設置しました。
- ・居室の窓ガラスに複層ガラスを採用し、空調負荷の軽減を図りました。
- ・外装は仕上げ材の耐久性を考慮し、タイル張りとなりました。
- ・シンプルな構造体とし間仕切壁は乾式工法とすることで、将来の研究形態にもフレキシブルに対応できる構造としました。



## TOPICS

# 山口大学における男女共同参画に関する意識調査の結果(下)

## —— 皆さんの声をまとめました ——

### D. 男女の性差・男女平等

・男女共同参画社会というのを今回初めて聞きました。私自身男女平等であることはとてもいいことだと思いますが、現実的にまったく平等になるというのは難しいと思います。やはり、男女間には肉体的、精神的にも違いがあるし、適・不適があると思います。適しているにもかかわらず女性だという理由でさせてもらえないなら問題ですが、ただこの社会についての考えは賛成です。

・私は基本的に、男女平等とは、男女の役割が考えられた上で成り立つものだと考えております。女性が社会に多く進出し、育児がおろそかになり、子供の世界が荒れている現状を目の当たりにすると、やはり母親は家庭にあってほしいと考えます。母の愛、父の愛とは違います。男性ではなかなか母親の役割はできません。女性が社会進出するためには、子供が犠牲になるとするのでしょうか。その点を確実にクリアできる夫婦であれば、社会進出は構わないと思いますが、現状を見て、今それは簡単なこととは思いません。

・男性も女性も同じ人間なのだから、あまり区別しすぎるのはおかしいと思う。女性でもしたいと思ったことはできる社会にしていけないとだめだと思う。

・大人の古い固定観念にとらわれていては実現しない。現代の若い人はそこまで男女の差を考えていないと思う。自分がそう考えるから。

・男女平等とよく聞くが、そういう男女平等という意識を高めることのほうが、男女に区別をつけ、差別しているように感じる。

・男性・女性の違いで仕事内容について差があるのは、それは当然だと思う。問題なのは男女平等と言って、男性が女性に対して男性並の能力を求めるのは無理があり、女性の就労意欲を損なうと思う。男性・女性、それぞれに合った仕事内容で、かつ女性が働きやすい環境をつくる事が大切だと思う。また男性、女性の区別なく、能力のある人は、昇進昇格できるような社会になるべきだと思う。働く女性の地位向上も、女性の就労意欲アップにつながると思います。

・この世の中において、男女関係なく一個人として、人権を尊重すべきであると思う。

・自分の能力を上手く発揮できるならどんな人でも社会で優遇されるべきであるし、逆に男だとしても無能な男は社会に必要なと思う。また、男女が共同で社会に参加するのは賛成だが、その場合男女問わずどちらも同じだけの能力を発揮しなければならないと思う。

・個人が働きやすい環境というもので考える必要がある。男性・女性という区別がないほうがよい。女性としての自由というより、様々に考えられる事情に即し、対応できる柔軟で融通の利く社会であるべき。上司や会社、社会と個人の対話が尊重されるべきです。

・本当の男女共同参画社会にするには、男として、女として見るのではなく、一人の人間としてその人を見る、扱うことが大事だと思う。

・男女平等が認められる一方、『男らしさ』『女らしさ』というものの価値を全く無くしていいものとは思わない。もし、後者を取れば、当然日本では、『男は仕事、女は家庭』という考え方も出てくると思う。ただ、日本の伝統的な考えの中にも、女性がしっかりとした社会的地位を得ていた時代(江戸時代の三行半の風習・かかあ殿下)があるわけだから、単に欧米人の男女平等(雇用機会均等法)を取り入れたとしても、女性の育児環境の整備だったりがついていかないとと思う。男女平等と『らしさ』の境界を作るのが難しいと思う。

・男女による性差の区別は実際にあっても構わないと思う。男女間の雇用・昇進・賃金格差は『女であるから』という理由のみでの差別はなくすべき。ただ差別をなくすからには、女性にはそれなりのリスクがかかると思う。女性は今までのように『気楽な経済活動に甘んじれない』というリスクを背負うべき。これからの時代は価値観の多様化が進むと思う。従来の男女差別はなくすべきだが、全ての女性が新しい価値観になることはないと思う。女性個人が決めることであって『家庭に入る女性』もあっていいと思う。

・時には、『男が強くて女が弱い』という考えが必要な

# TOPICS

ときもあるが、職場などで明らかに男女差別だと思われることは直したほうがいいが、それ以外の普段のときは考えなくていいと思う。前述の質問で、『教職員、学生の男女比を1:1にするべきである』などというのは、無意味なことだと思う。

・女性はおしとやかで、従順であることが理想とされ、社会進出を制限され、家に縛られて生きなければならぬとされた時代が過去に長くあり、また、現在にもこの傾向は残存している。確かに、差別や隷従はいかなるものも、これを許してはならない。しかし、一方で現代社会においては、人間のあるべき姿が多様化し、とすればむやみに、男性であること女性であることの権利を主張し自由を要求する者もいる。誰もが男女の性差を超越した一個人として生きられる社会を実現すると共に、男女の誰もが、互いの性差を理解し、違いを受け入れられる環境の実現も必要となる。このためにも、全世界規模での全人類的な相互理解と、家庭、学校だけでは社会全体での教育が必要である。

・現状がどのようなものか分からないので、詳しいことは言えませんがアンケートをみると、男女を分けて考えすぎているのではないかと思います。自然のままが一番よく、それが納得できない女性は、自分の力を向上させ、周りを認めさせれば良いと思う。

・女性としてひとまとめにして考えられていますが、女性にもいろいろな考え方の人がいて、男女平等で実力を発揮したい人もいれば、男性に頼って楽をしたい人もいます。もともと男女共同参画に障害になるのは、男女を問わず、都合の良いときだけ、自分が男である(女である)ことを主張する人達だと思います。

・男性は生活的自立、女性は経済的自立が必要。女性は自らの地位や品位を落とすような行動、仕事をするべきではない。

＜他84件＞

## E. 制度施策の必要性・実効性・適用のし方・能力主義

・女性が社会に出て行くこと(働くこと)が、男女平等参画社会に繋がるのなら、その分、家事を男性に任せられることができる社会制度もつくるべき。ワークシェアリングとは少し異なるが、仕事と家事を男女共に50:50にできること。労働時間を減らして、その分、家事を専業主夫・妻に回す。

・0歳から中学生まで、きちんと子育てと仕事を両立できるような制度がほしい。子供が病気するとき、妻が仕事をもっている場合、男性も仕事が休めるというようなことが社会的に認められるようになってほしい。病児もみてる24時間保育所がほしい。

・育児支援を充実すること。男性の育児支援政策が足りないので、男性が家庭に入ることができない。一番のネックは、子育てが多くの夫婦に『負担』と感じられていること。この状況が続くと、育児と仕事の両立が計れない。このことが原因となって結婚しない、あるいは子供を作らないという人たちが増えて、日本の人口減少になる。したがって幅広い育児支援政策が必要である。

・女性の社会での活躍を妨げている最大の要因は、出産・育児期の女性を支える施設システムの欠如だと思います。

・Q18について配偶者は、他者と守るべきものを共有して、人間的に刺激しあって成熟していく人生のパートナー。これからの少子高齢化が進む社会では男女共同参画を実現することは、必要不可欠な事柄だと思います。具体的に、女性が出産、育児という大きな役割を集中的に担っている社会や男性が認識して、ワークシェアや託児施設の充実、男性の育児休暇の義務化といった取り組みと、社会全体で子供を育てるという環境の促進が求められるのではないかと感じます。長い目で人生を見て30代の育児後の社会復帰を目指した積極的な人生設計(家族計画)をして、パートナーの理解、そして協力を求める事から始めたらいいのではないかと思います。

・『男女共同参画』と『女性の保護』を制度としてどう整合させるかを考慮する必要性を感じます。また、『機会の平等』は制度として保障されるべきですが、『結果の平等』を求めるとゆがみを生じると感じます。(本アンケートの『平等』がどちらを意図しているか意図を図りかねます)。この点を明確にしないと、『改善』しても、本来救済されるべき女性(個人)は救済されず、別の女性がモデルとされ、男性にその分しわ寄せがいくだけという事態になりかねないと思います。価値観の多様性を尊重しあわない社会、家庭の重要性を尊重しない社会を改善することに努力すべきである。それを無視(放置)したまま『男性、女性』というくりで物事を

# T O P I C S

判断する事(このアンケート含め)こそ男女共同参画社会の実現への障害だと思えます。

- ・制度で推進しなくても、自然とそうなるのがいいと考えている。実際のところ社会通念などが障害になっているので、制度で改めることが必要でしょう。時間がかりそうですが、共同参画社会を実現させたい。

- ・男女関係なく、能力のある者がそれ相応の地位につくことは、至極当然のことであると昔から思っている。この考えは、最近だいぶ広まっているはずではあるが、未だに存在するのは、頭の古い人達が上にいるからであり、そういう人達がいなくなる30~40年後には、職業関係の差別はなくなると思う。

- ・大学の学問・研究の場では、教官・学者の能力・やる気を最重視するべきであり、職場の男女比を1:1にするという見かけ上の男女平等主義で、雇用・採用のやり方がゆがめられないようにすべきである。つまり、能力のある教員であれば男女の別に関わりなく、採用すべきである。

<他47件>

## F. 女性差別・社会的公正の実現・社会通念

- ・私が女性への差別を感じたのは、サークルや部活動の勧誘で女子のマネージャーを求めていることです。一般的に女性の方が男性よりも他人の世話をするという考えがあると思えます。この点に関して、私はひどく腹立たしく思います。

- ・社会的不公正がまかり通る世の中では、男女共同も難しい。

- ・個人の考え方を尊重する社会があれば、『男女共同参画社会』が実現されているはずである。とかく、日本には個人の尊厳、基本的人権などが、社会に十分根付いてない。

- ・女性全てを『弱者』でカテゴリー化すると、問題が生ずると考えられる。女性が女性を差別することも現実には多いと思う。問題を同じにして考えてはならない。

<他10件>

## G. 啓蒙の必要性・幅広い議論の必要性

- ・十分な議論が必要である。男女共同参画ということに関する情報の提供が必要(説明を含む)。男女平等に関する意識の低さが障害である。男女を平等に扱う意識改革が最優先であり、そうなれば自然と男女共同

は実現されると思う。早急な『男女比率の調整』とか『採用数の調整』は、意識改革をとまわなければ、ただの『女性の優遇』であり無意味かと思う。女性が就業し、男性が家庭に入る家族を、自然と認められるかどうかであると思う。家事が下等な職業であるという意識が透けて見えるのも気になる。

- ・男女共同参画社会を実現していくには、個々の人がその社会の中身について理解することから始まっていくと思う。これからは、男女関係なく、能力のある人が、重要なポストにつくほうが、日本のためでもあるし、会社のためでもある。だから、これからは、男でも『主夫』をするぐらいの気持ちでいかなければいけないと思う。

- ・男女共同参画社会というテーマにおいて、女性についての社会(特に職場)進出が足りないことが問題であるとする。その場合、女性は結婚・出産を経験すると、家庭生活にどうしても重心を置きがちであるし、また、それを求められること、そして女性自身がその状況に甘んじて、職場における責任から逃れようとする事などに原因があると思う。育児・介護施設などの環境が今よりも整えられることは当然のことであるが、男女共に『平等』という考えについても皆がもっと深く掘り下げていくことも大切だと思う。家庭というのは男女問わず精神的よりどころとなる大切な場所だと思うので、それをおろそかにするような社会にならない考えを皆がもてたならば素晴らしいと思う。

- ・まだまだ『男女共同参画社会』という言葉に耳にすることが少ないので、もっと日常の目のつくところでアピールして行く方がいい。わかりやすく、耳に入りやすい言葉のほうが、聞く気もおこるので工夫して呼びかけていくことも必要だと思う。

- ・大変、回答の難しい調査でした。意識の変革は大変難しいことですので、長期間にわたって継続し、啓蒙が必要だと思います。

- ・Q18について、家庭は、人間としての成長の場と思う。男女共同参画社会に関する、多方面からの講師を招き講演をする等、山口大学の教職員の意識を高めるとともに、学生・生徒を含め早いうちに意識改革をしてほしい。

- ・男女共同参画社会を本当に実現しようとするのであれば、多くの人間が肯にしろ否にしろ、意識をもつことが必要。もっとアピールをしなければいけない。

## TOPICS

・比較的、男女平等であるであろう学生生活しか経験していないので、社会的に女性がどれほど不利な立場にあるのかが実感としてない。小中高と、さかんに男女平等について教えられてきたので、私と同年代の人達は、今のところさほど男女差別を意識してもっていないのではないか。大学を卒業して、社会に出て、かなり年上の人とつきあっていくときに、今まで男女平等と教えられてきた意識が差別的方向に傾いてしまっただけで、現状維持の状態が続く。差別意識をもった年代の人達にこそ、男女平等教育がなされるべきだと思う。また、これからも、年齢の低いうちから男女平等ということを教えるべき。

・安心して働く環境作りは、男女の協力なしにはありえない。大学教育の中にも男女共同の精神が生きていなければならないと考える。男女平等、人権意識の高揚を図る施策がもっと必要である。

・法制度が先走っていて、慣例、慣習は改善されていないし、情報が少ないため、特に年齢の高い人たちの意識が低い。定年退職を間近にひかえた人にとって、自分は無関係と思っている。自分が若かったときには、そんな制度が無かったので、今更変えるのはおかしいと考える人が多い。新聞、広告などでもっと情報を流し、意識改革を行う必要がある。

<他22件>

## H. その他(アンケートそのものについてなど)

・このようなアンケート調査が行われ、結果が出たとき、その結果は有効に生かされているのでしょうか。この意識調査の結果はそのように利用されるのでしょうか。もちろん、男女共同参画のために使用されるとは思いますが、アンケートに協力してよかったと思えるような、結果利用をお願いします。

・Q15について、女性が優遇を嫌って平等を目指さないから。全体に男尊女卑があるという前提でアンケートを作っていると考えられる。この結果は、私の感想では信用するに値しない。アンケートを作成した時点で質問に偏りが無いかどうか他者に評価してもらうことが、公正さを保つのに必要である。

・理想についてのアンケートなのか、現実のここ10年くらいの山口でのアンケートなのか、法で規定する『男女共同参画社会』のアンケートなのか、よく分からない。

・男女の問題ではなく、国際協力、競争に並べる能力を問うたり、また物事に対応できるかなどの設問や意見が無いのが不満である。

・本当に、男女共同参画社会を実現しようとするならば、主夫の存在を社会的に認めるべきである。このアンケートを見る限り、女性の社会進出のみの項目しかなく、男性が家庭に入る項目はない。つまり、このアンケートは女性のエゴでしかない。特に教職員の半分を女性にという考えを出すこと自体誤っている。女性の方が男性よりも能力が高いのであれば、女性教職員の方が多くてもいいと思う。このアンケートは女性のエゴでしかないと思う。

・まず、Q1~6までの(特に4,5,6)のような質問を最初にされたのは全く不快で委員の見識の低さにただ愕然としました。男女平等をうたう前にQ1~6のような内容で人を差別化しようとする姿勢は改めて、その上で真剣に討議して下さい。どの社会においても、まだまだ男女共同参画はなされていないと思いますが、自由な風潮の山口大学であればこそ、なしえる新たな社会が訪れる事を期待します。

・多くの先進国側のように、結婚しても夫婦別姓を法律上認めてほしい。

・働く女性と専業主婦との優遇差があると思う。年金保険制度などその例であると思う。『男性が安心して働くために家庭を守っている』から優遇するというのは、間違いであると思う。働く女性も今の現状では家庭のことも男性以上に行っている。

<他11件>



## TOPICS

# 山大が動き出す5!!

坪郷 英彦 広報戦略委員会



## 4月の法人化がスタートしました

国立大学法人山口大学が動き出しました。4月1日のセレモニーや、学長・副学長の言葉の中に新しいマークのことにふれたり、ブランドプロミス「まっすぐ。山口大学」をアピールしたりと、早くもデザインの効果が現れています。

平成13年度の基礎調査からはじまり、調整期間の1年を挟んで、3年間のプロジェクトに一応の区切りがついたこととなります。これまでの作業を振り返ると委員会の方々の専門的なあるいは一般的な様々な意見の中から出された新しい進め方を具体化したことが印象に残ります。具体的には発注をコンペ形式で行ったこと、デザインの進み具合を大学ホームページで公開し、報道機関への働きかけを積極的に行ったこと、大学内外の人々の意見を出来るだけ採り上げようとする企画を行ったことの3点です。また、これらの新しい進め方が出来たのは担当事務の方々が国立大学の運用の中で可能なように細やか

な調整をして下さったためです。

## 広がりを見せるマーク使用

このマークの使用にあたっては管理マニュアルに示したとおりの基本的な使い方の範囲内でしたら広報・調査係に届けを出してもらっただけでオリジナルのデジタルデータを受け取ることが出来、それを印刷原版として使うことが出来ます。初めての応用となるような場合は広報・調査係に問い合わせをしてもらっています。まだ滑り出して1か月ですが、届け出は37件で新しい使い方での問い合わせは約60件出ています。届け出をしてもらうのはどういところでどれ位使用されているかを把握するためですが、もう少し届け出の簡便化を図ることを検討中です。届け出の煩雑さのために教員や学生の利用度が下がるようになってはなりません。現時点では、使用上の不明さがクレームとして出てきておらず、使用説明会の開催は杞憂



「大学正門のシンボルマーク」

# TOPICS

であったかと思っています。

## マスコットマーク・キャンパスグッズを期待

今後は学生が自由にアレンジしてサークルやゼミなどのマスコットマークを作ることや、関連業者にノートなどの文具やTシャツやバックなどの衣類・小物などいわゆるキャンパスグッズの販売を期待するなど普及を図ることを検討しています。これらのアイデアはデザインを進める中で、学内外の人々に聞いた声から出てきたものです。マークデザインの決定にあたっては親しみやすさやデザイン展開のしやすいものが望まれていることを判断基準に含めていました。

円に近いまとまりのある形は遠くからもよく目立ちます。一筆書きのようなシンプルな形は手書きの要領で様々なアレンジが可能です。マスコットマークに学生の自由な発想の展開を期待したいものです。

また、キャンパスグッズへの期待は学生とともに教員の間でも高いようです。私たち広報戦略委員会はマークを製作する側から管理する側になったわけですが、管理するに困るくらい様々な使用例や展開例が出てくることを期待しています。

山大は着実に動き出しましたので、このコラムはこれで閉じます。



# 私の研究

## ことばのエンジニアを目指しています。

太田 聡 助教授  
人文学部国際コミュニケーション講座

### 最初の運命的な出会い

皆さんも、中学や高校のときに、よく英単語のアクセントに関する問題に出くわしたと思います。私はあれが嫌いでした。「知っているか、知らないか、それが全て」という感じなので、とても不満でした。「単語のアクセントにもきつとなにか法則があるはずだ。それを知りたい」と思って過ごしていました。高校時代のある日、実家の離れで本棚を見ていると、ラテン語の辞書が目飛び込んできました。私は、読書は苦手でしたが、先人の知恵が凝縮されているような辞書・事典類が大好きだったので、さっそくそのラテン語の辞書を恐る恐る開いてみました。そして、はしがき部分の中に「音調(=アクセント)は、3音節以上の語では、語末から2番目の音節が長ければそこに、短ければ語末から3番目の音節にある」という旨の記述を見つけ出して、衝撃を受けました。「なんと明解な規則なんだ。こういったものが英語にもあれば、一々暗記する必要はないし、知らない単語に出くわしても大丈夫じゃないか」と妬ましくも思いました。現在、音韻論という分野を専門にしている私にとって、このラテン語のアクセント規則(以下LAR)との出会いは、まさしく運命的なものでした。

### 生成音韻論との出会い

大学・大学院時代は、暗記するしかないと思われるような様々な言語事実の中に、明確な原理・原則を見つけ出して、説明を与えたいという思いを抱きながら、種々の言語理論を学びました。そして説明・予測をしたいターゲットの一つが、相変わらず(一見不規則な)英語のアクセントでした。そのために、アクセント論としては最も優れていると教わった生成音韻論という理論を夢中で勉強し、自分の説明したい事柄に応用してみました。そして、英語の語のアクセントの配置においても、特に名詞の場合には、LARが基本的に当てはまるということに気付いたときには、感激でした。生成音韻論という道具を手に入れたおかげで、目の前の霧がさっと消えた感じでした。

### 日本語研究の魅力

我々日本人は、DNAが突き動かすのか、年を取るにつれて洋風よりは和風好みになっていく面があります。研究にもそういったところがあるのかもしれませんが。私も、30歳を過ぎた頃から、外国語ではなく、もっぱら日本語の分析を行うようになりました。そして、このシフトにはとてつもの

大きな収穫が待っていました。

日本語と、例えば英語は、もちろん類縁関係はありませんし、表面的にはまるで違ったタイプの言語です。ところが、日本語のアクセントを綿密に調べてみると、特に名詞のアクセントの配置に関しては、上述のLARがバッチリ当てはまるのです。このことを発見したときには大興奮でした。さらに、音声分析の機器も使って詳しく調べていくと、より強いアクセントを感じるころは、日本語においても英語においても、ピッチ(=音の高さ)がより急激に落ちる箇所だということも分かりました。少し抽象的なレベルに目を向けて日英語を対照させると、偶然とは思えないほどの共通性が沢山浮かび上がってきました。

### 言語研究の目標と意義

日本語と英語のように、全く異なるタイプの言語の中に隠された意外な共通性が見つかること、言語の「普遍性」ということを論じることができるようになります。あるいは、西洋の色々な言語の分析を通して普遍的だと考えられていた事柄に対して、日本語を武器に、全く異なるパターンも存在することを示して、定説をひっくり返し、より高次の普遍性を唱えて世界をあっと言わせるようなこともできるのです(紙幅の関係で、残念ながら、アクセント以外に私の取り組んだ分析の例を挙げることはできません)。日本語は、西洋諸語などと本当に比較のし甲斐があります。言語の真の普遍性や個別性を発見するにはもってこいの材料を提供してくれます。そして、上で紹介したようなアクセントの共通性などが見つかること、そこから更に、人間の認知のメカニズムや、知覚の原理の共通性なども論じることができるようになるのです。

### おわりに

自然科学においては、別々の現象と思われていたものの中に共通性を発見し、統一的に理解することで飛躍的な発展が遂げられてきました。ことばの研究のような人文科学においても、そうした取り組み方が重要だと考えます。そして、私は、「ことばのよきドライバー」——英会話などが上手な人の喩えです——よりは、言語の内部構造などがよく分かっている「ことばのよきエンジニア」になりたいと願っています。



言語習得・言語障害研究の世界的権威  
H. Clahsen博士と談笑中の筆者  
(もちろん向かって左側)

学内連絡先

TEL:083-933-5283

E-mail: ohta@yamaguchi-u.ac.jp

# 私の研究

## うつ病の脳で なにが起こっているか？

中村 彰治 教授  
医学部医学科 高次神経科学講座

### 偶然による研究のきっかけ

うつ病の人の脳でどのような変化が起こっているのでしょうか？この質問に対する答えは、まだ見つかっていません。私が、うつ病と神経細胞の形態変化に注目しはじめたのは、およそ15年前のことです。当時、ある実験をしているときに、これまでの実験結果とまったく異なるデータが出てきて、困ってしまったことがありました。予想に反した結果が出た原因を調べていくうちに、実験に使用した動物が自然にストレスを受けていた可能性が考えられました。このことが、ストレスと関連の深いうつ病の研究に私を向かわせるきっかけとなりました。

### 神経回路が気分を変える

私たちの身体は、細胞という最小の単位でつくられています。肝臓では肝細胞、心臓では心筋細胞、脳では神経細胞、というように各臓器に特有なはたらきをもつ細胞があります。脳をつくる神経細胞は、特徴的な形をしています。細胞体をつつむ膜から、多数の短い突起（樹状突起）と一本の細くて長い突起（軸索）の2種類の突起がでていますが、神経細胞の典型的な形です。脳の情報処理は、このような神経細胞が多数つながってできる神経回路を電気（活動電位）が伝導することによっておこなわれます。樹状突起は、情報の入力部、軸索は出力部となっています。神経細胞と神経細胞がつながる部分(シナプス)は、少しすきまがあいていて、情報を送るほうから受け手にむかって化学物質（伝達物質）が放出されます。この伝達物質が、受け手の細胞膜にある受容体（レセプター）に結合すると、ある過程を経て受け手の神経細胞に活動電位を発生します。したがって、脳の情報処理は、電気活動と化学伝達によっておこなわれているといえます。単純な運動や感覚から、記憶・学習、高

度な精神活動まですべて、このような脳の神経回路のはたらきによって実現します。気分や感情の状態も、神経回路によって調節されているのです。

### アイデアから実験へ

偶然のきっかけから私が出たうつ病研究のアイデアは、うつ病ではある特定の神経細胞の形態(特に軸索)が変化しているかもしれない、ということでした。このアイデアを得るまでにはもう少し物語があるのですが、紙面の都合上省略せざるをえません。私は、自身のアイデアが正しいかどうかを検討するために、うつ病の治療薬（抗うつ薬）が神経細胞の形態変化を起こすかどうかを実験してみました。うつ病には抗うつ薬が効くことがわかっているので、抗うつ薬の脳に対する作用をつきとめれば、逆にうつ病でおこなっている脳の変化を解明できる可能性があります。私の抗うつ薬の実験結果は、研究者として最高の喜びをかんじる予想どおりものでした。当時、世界中の研究者は、うつ病の神経回路では伝達物質やそれと結合するレセプターに問題があると考え、神経細胞の形態のほうにはほとんど注目していませんでした。現在、うつ病の研究では、神経細胞の形態変化とその形態変化をおこなすのに必要な脳内物質（神経栄養因子）に最も注目が集まっています。私の研究結果は、現在おこなわれているうつ病研究の火つけ役のひとつになったと信じています。

### 研究へのいざない

私のうつ病の研究結果は、昨年になって初めて外国の研究者によって“Nakamura hypothesis”として専門誌に詳しく紹介されました。仮説と呼ばれる段階では、まだ私の考えが正しいと認められたわけではありません。私は、私の仮説が正しいことを証明するために、さらに研究を続けています。脳のはたらきは、まだほとんど解明されていません。わくわくさせる研究のアイデアが、脳の研究には無限にあります。多くの若いひとたちが、脳の研究をめざし、発見の感動を体験して欲しいですね。

学内連絡先

TEL: 0836-22-2210

E-mail: snaka@yamaguchi-u.ac.jp

<http://po.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~seiri2/>

# 私の授業

## 電子紙芝居



中村 秀明 助教授  
工学部知能情報システム工学科  
システム設計工学講座

## 試行錯誤

私は現在、共通教育で「理工学のための統計学」という授業を担当しています。1年生の前期に開講される授業なので、つまらない授業を行うと、せっかく受験勉強を終えて、やる気を持って入学した新入生のやる気を損なう恐れがあるので、結構気を遣って授業を行っています。学生の側には、大学の授業が面白くないという批判があり、一方、教員の側には、学生の学力低下と不勉強を嘆く声があります。このような状況の中で、どのような授業を行えば良いのか、私自身、試行錯誤で授業を行っている状態ですが、授業で工夫している点について述べさせていただきます。

## PowerPoint

私の授業では、版書きは行わず、全て電子紙芝居（PowerPoint）を使っています。元来、話すのはそんなに得意ではないため、資料なしでは、長く話せないのと、文章は、ほとんどワープロで書くため、漢字がすらすら書けないためです。また、理系全体の授業ということで、受講生が多いため、黒板に書いたのでは、後ろの人にはほとんど字が見えないというのが主な理由です。最近では、どの教室にもプロジェクターが設置されており、PowerPointのおかげで随分助かっています。

- PowerPointを使った授業の利点としては、
- ・わかりにくいことを図や写真を使ってわかりやすく説明できる。
  - ・一度準備すれば、少しの修正で、毎年同じレベルの授業が行える。
- などがあると思います。また、欠点としては、
- ・画面が早く移り変わるので、内容をノートに写す時間がない。
  - ・テレビといっしょで、その時は、わかったつもりになっているがあまり印象に残らない。
- といったことが挙げられます。

## Homepageの利用

PowerPointの欠点のところでも述べましたが、PowerPointを使った授業では、画面の移り変わりが早いため、内容をノートに写す時間がありません。そこで、PowerPointで写した内容は、プリントとして配布しています。また、授業では、学生は、ノートパソコンを持ち込んでいるので、Homepage上からPowerPointのファイルおよびその資料（PDF）をダウンロードできるようにしています。授業を欠席した場合でも、これらの資料をダウンロードすることにより、自習することが可能であり、また、予習や復習にも役立ちます。参考のため、Homepageのアドレスを下記に示しますので、興味のある方は是非ご覧ください。

<http://gateway2.design.csse.yamaguchi-u.ac.jp/lab/index.html>

## 小テストおよび授業内演習

高校の授業は、50分が標準です。PowerPointで90分間みっちり授業を行われると、聞いている学生はたまったものではありません。そこで、授業の後半は、もっぱら電卓あるいはExcelを使った統計の演習（小テスト）を行っています。学生は、授業の後半に演習があるので、前半部分の説明も結構まじめに聞いています。

## 答案の返却

中間試験および期末試験の答案用紙は、基本的に返却しています。これは本人がどこが間違ったのかを自分で確認するためと、答案用紙の採点を自分自身で確認してもらうためです。間違ったところは、強く印象に残るため、同じ間違いを繰り返さないためにも、答案用紙の返却は必要です。

## 成績の公表

受講している学生にとって、出席状況や小テスト、レポート、中間試験や期末試験などの成績はとても気になることです。私自身は、宇部に居るため、学生は成績を聞きに来ることができませんし、受講生が多いため、E-mailで問い合わせられても困ります。そこで、希望者に限り、成績をHomepage上で公開しています。ただ、個人情報なので成績を氏名や学籍番号で公表するわけにはいきません。そこで、中間試験のときに、成績の公開を希望する者に対しては、10文字の英数字で「ニックネーム」を設定してもらっています。このニックネームで成績を公開しています。Homepageでの成績公開で気を付けていることは、次の2点です。

- ・希望者のみ公開する（希望者のみ、ニックネームを設定してもらう）。
- ・個人が特定できないようにニックネームを設定してもらう。

ニックネームは、本人が設定するものであり、本人しかわからないため、今のところ成績の公表で問題は生じていません。

以上、私が授業で工夫している点です。私自身、試行錯誤で授業を行っている状態です。ご意見、アドバイス等がございましたら、是非ご連絡ください。

## 学内連絡先

TEL&FAX:0836-85-9531

E-mail:nakamura@design.csse.yamaguchi-u.ac.jp

## 教員から寄せられた著書

### 「脳と遺伝子の生物時計」



共立出版 164頁 2004年3月

(推薦 大阪大学助教授 富永(吉野)恵子)

(推薦文)

1979年、当時三菱化成(現三菱化学)生命科学研究所に在職中の井上慎一博士が報告したアイランド(周囲との神経連絡を断って特定部位を孤立させる手術法)の研究は、視交叉上核が哺乳類の体内時計であることを決定的に示した(詳細は本書を参照)。現代的な哺乳類の生物時計研究はこの研究から始まったといっても過言ではない。最近では、時計関連遺伝子がクローニングされ、体内時計の分子機構の詳細な理解が進んだこともあり、新聞やテレビでも時間生物学に関する記事や番組が頻繁に取り上げられるようになった。そのおかげか、多くの学生や市民が生物リズムに興味を持つようになった。本書は、そうした時間生物学の勉強を始める人のために、哺乳類の生物時計に関する基本的な考え方を、生理学から分子生物学まで、判りやすく整理して提示してくれた入門書である。内容の広範さにも関わらず理解しやすいのは、事実の羅列を避け、時間生物学の概念を体系的に理解させることに主眼を置いて書かれているからだろう。図には非専門家には読み取りづらい生の実験データではなく、概念図を用いている。重要な結論は「ポイント」として、発展的事項は「サイドピック」として、全体の流れを逃さないよう配慮されている。さらに基礎的な生物学の知識も盛り込まれ、他の教科書と併用しなくても読み進められるような工夫がされている。時間生物学の趨勢を見てこられた井上博士だからこそ書けた一冊である。



井上慎一 教授 理学部 自然情報科学科

TEL:083-933-5711 E-mail:inouye@yamaguchi-u.ac.jp

### 「小動物の臨床アレルギー」



著書(共著):「小動物の臨床アレルギー」早崎峰夫、小守 忍共著、学窓社、151頁、1998年8月。

犬には、ヒトと同じように、アレルギー性疾患が多発している。犬の場合はアレルギーの種類として最も多いのがノミアレルギーで、以後ハウスダストアレルギー、ブタクサ花粉アレルギーの順であった。その他、豚肉アレルギー、小麦アレルギー、首輪の金属アレルギー、珍しいものではタバコ煙アレルギー(飼い主が吸うタバコの煙にアレルギーになる)などさまざまである。本書は、アレルギーの免疫学的発生メカニズム、アレルゲン診断検査、犬のアレルギー症状の特徴、吸引アレルギー、食餌アレルギー、接触アレルギー、昆虫アレルギーなどの特徴、減感作治療法、薬物治療法、看護療法、特殊なアレルギー性疾患など全般に渡って著述しており、獣医学科学生の教科書として、また臨床獣医師の卒後研修の教則本としてあるいは診察室に常備するアレルギー診療の治療マニュアルとして活用できる本になっている。



### 「内分泌学」

翻訳(全訳):獣医臨床シリーズ2003年版Vol.31/No.5「内分泌学」、学窓社、223頁、2003年9月。

原題「The Veterinary Clinics of North America, Small Animal Practice, Vol.31. No.5; Endocrinology」の翻訳本。内容は、多飲多尿症の診断の進め方、猫と犬の糖尿病、犬の糖尿病の治療、猫の糖尿病の治療、リンパ性甲状腺炎、犬の甲状腺機能低下症の病態、犬の甲状腺機能低下症の診断検査、猫の甲状腺機能亢進症の診断と治療、犬の副腎皮質機能亢進症の診断、犬の下垂体機能亢進症の内科療法と下垂体摘出手術法、カルシウム代謝障害の診断と治療、猫の内分泌疾患、内分泌線腫瘍14章に分かれていて、小動物(犬と猫)臨床診療における米国の獣医内分泌学の専門家による上級レベルの専門書。



早崎峰夫 教授 農学部 附属家畜病院

TEL:083-933-5896 E-mail:hayasaki@yamaguchi-u.ac.jp

## 教員から寄せられた著書

### 「包公伝説の形成と展開」

(汲古書院 2004年2月刊)



「包公」とは中国で名判官として知られる包拯(999~1062)のことです。彼はあらゆる権力者の不正を許さなかったため民衆に慕われ、のちに小説・演劇などの文学を通じてその伝説が形成され、しだいに全国に広まり、現在では彼の名前を知らない人はありません。日本の大岡越前のような人物です。

じつは包公の伝説をしるした小説『百家公案』や『龍図公案』は、毛利藩主の蔵書をあつめた「棲息堂文庫」の中にあり、わたしは山口大学に赴任してその解説を担当したことからこの研究をはじめました。

そのうち中国で「説唱詞話」という語り物が発掘されました。わたしはこの作品を分析して、包公が皇帝の不正をも厳しくたがす人物に描かれていることを明らかにしました。民衆は包公に絶大な信頼をいただいたのでした。

こうした包公のすがたは現代の中国社会にも伝承されております。わたしは中国各地の農村を調査して、農民が包公を神として祭り、包公の経典をつくったことを知りました。地方劇もたくさん創作されました。それらは中国各地の図書館で読むことができます。

わたしの著書にはこうした調査研究の成果を述べています。これは1990年代から中国の開放政策をおこない、外国人でも中国の資料を自由に閲覧できるようになり、一人で中国の農村にはいって人々と話すことができるようになったからです。



阿部泰記 教授 大学院東アジア研究科  
TEL:083-933-5260 E-mail:abey@yamaguchi-u.ac.jp



## 新聞掲載された山大・地域から見た山大

### 3月

- ◆ 薄型通信素子の開発に成功!  
山口大と日立金属 (防長:2日)
- ◆ あすから、山口大学で  
4回生卒業演劇公演 (サンデー山口:3日)
- ◆ 14日、山口大学で  
環境保全型農業フォーラム (サンデー山口:3日)
- ◆ 知財本部に特許庁OB  
一山口大 (日経:4日)
- ◆ **遊び、勉強1年間ありがとう……**  
生雲小から感謝状 一阿東一  
教員志望山大生と小規模校交流 (山口:4日)
- ◆ **家族一緒に科学楽しんで**  
「サイエンスワールド」開催 一山大理学部一  
県スポーツ文化センターで14日  
(NHKテレビニュース:14日、朝日:5日、11日、山口・読売:  
17日、読売センターわいわいヨミー:31日)
- ◆ 新留学生に生活用品を  
山口の交流会寄付募る (朝日:6日)
- ◆ 山大前期日程1469人が合格 (山口・朝日・中国:9日)
- ◆ きょうから女性尿もれ電話相談  
一山大付属病院一 (西日本・読売:10日)
- ◆ 第1回穎原賞の受賞者が決まる  
一山口老年総研が創設一  
濱野公一・山口大医学部教授受賞 (朝日:12日)
- ◆ **岩国高で大学セミナー**  
山口大、県立大の教官が講義 (防長:12日)
- ◆ 山口大と県立大 後期日程に1487人  
合格発表は23日 (朝日・中国・山口:13日)
- ◆ 山大教育学部・前田実名恵さんが  
**中心商店街活性化を卒論テーマに**  
空き店舗対策やアンケート調査も実施  
(サンデー山口:14日)
- ◆ 医療・福祉・保健の情報連携へ  
NPO「健康ネット」始動  
山大や県、企業などで構成 (西日本:16日)
- ◆ 山大病院前に彫刻 (毎日:16日)
- ◆ 大学講義 3高校1000人体験  
山口地区連携教育 分野別に5会場で(山口:14日)
- ◆ **自らの手で地域守ろう**  
一山大工学部山本 哲朗教授一  
自主防災会が発足  
災害に強い町づくり目指す (宇部日報:26日)
- ◆ 本番さながらに訓練 一大竹の特養一  
一山大工学部山本 哲朗教授一 (防長:17日)
- ◆ 山口大、理事6人を発表  
法人化後、経営協議会16人委員  
(山口・毎日・朝日・読売:17日・西日本:22日)
- ◆ 横山省三彫刻展 一ギャラリー ラ・セーヌ一  
山口大教育学部教授 (朝日:18日)
- ◆ 4月から国立大学法人となる山口大学 (サンデー山口:19日)  
地域社会と共に歩む
- ◆ 生かされない自然災害の悲劇  
一山大工学部山本 哲朗教授一 (宇部日報:22日)
- ◆ 工学部前期のセンター試験  
山大が教科・科目減 一来年から一  
(山口・朝日・読売:24日)
- ◆ 山大、2421人が卒業 (山口・読売・朝日・毎日:24日)
- ◆ 694人が合格  
山大後期日程 (山口:24日)
- ◆ 宇部興産・山口大が提携  
研究開発協力や人材育成 (日経:25日)
- ◆ 異例の特別講義で“救済”  
アホ学生撲滅を訴え定年退官した栗井 郁雄さん  
(宇部:24日)
- ◆ **寄稿** 自主防災活動の即進を期す  
隣近所の付き合い原点上に  
一山大工学部山本 哲朗教授一 (山口:26日)
- ◆ **学部創設60周年**

医学・医療の未来を開く 山口大学医学部  
よい医療人の輩出が使命 創設60周年の節目に法人化  
先進的カリキュラムの取り入れ 石原  
安心できる安全な医療を提供 沖田  
研究心と実践力ある医療人に 塚原  
(読売:26日)

- ◆ **特許情報データベース化** 一山口大一  
独自開発ソフト使い 地域企業にも開放  
(日経:30日)
- ◆ 総合研究棟が完成 一山大医学部一  
高度医療技術者育成へ (山口:31日)
- ◆ 山大、あす独立行政法人化  
地域貢献軸に「知」提供 生き残りかけ運営に独自策  
(山口:31日)
- ◆ **国立大法人化前夜 中国地方に見る**  
**内外の目**  
気になるランキング 「教育に力を注ぐべき」  
(中国:31日)

### 4月

- ◆ 自主防災組織づくりの促進を望む 山本 哲朗山口大学教授
- ◆ 「経営には自信」法人化始まる  
山大学長が強調 (朝日・読売・山口・毎日・宇部日報:2日)
- ◆ **共同で研究、人材育成**  
山大と宇部興産提携 特許申請など目標  
(朝日・日経・山口毎日:3日)
- ◆ 大学と地域で街づくり  
10月に山口で「サミット」  
実行委合意 全国に参加よびかけ (読売・日経・山口:6日)
- ◆ 新・山大生2817人が入学式 (読売・山口・朝日:7日)
- ◆ 文科省の学力向上支援事業 県内は4校指定  
教員志願者やOB派遣 (山口:7日)
- ◆ 「改善事項なし」5年間更新認定 一山口大病院一  
(日経:9日)
- ◆ キャセック普及 山口大でも導入一英語能力テスト一  
(山口:10日)
- ◆ 今年も応援バック 一山口の交流団体一  
**山大留学生50人に贈る** (朝日:13日、山口:14日)
- ◆ 山大とコアが新会社 一医療福祉機器開発・販売へ一  
肢体不自由者らの就業支援システム 今年度商品化へ  
(山口・読売・毎日・日経・朝日:15日)
- ◆ **煙たい学生時代遅れ** 一大学ぐるみで禁煙支援あれこれ一  
九州・山口でも分煙の動き (朝日:16日)
- ◆ **月曜インタビュー** 山口大学工学部長 三木 俊克さん  
研究強化、ニーズに応える (山口:19日)
- ◆ 産学官で組織初の本部会議  
**「知的クラスター創成事業」始動**  
LED生かし医療機器 (宇部時報:17日)
- ◆ 山口高 理数教育の重点校に  
育て科学技術の担い手・山大などと連携し授業  
(朝日:23日)
- ◆ 山口大学で公開講座 受講者募集中 (サンデー山口:24日)
- ◆ 山大演劇部春公演「赤鬼」 (サンデー山口:24日)
- ◆ **山大付属病院の「女性外来」好評**  
1年目は449人受診  
同性の診療 信頼と安心感  
相談多い婦人科 毎週に切り替え対応 (宇部時報:24日)
- ◆ 山口大「環境ネットワーク」発足へ  
学部超え教員スクラム (宇部時報:24日)
- ◆ **やまぐち夢追い人 探る・究める・見つける**  
Q生物の体内時計はいくつ?  
千葉 喜彦さん(山口大名誉教授) (毎日:29日)
- ◆ 田中教授(山口大工学部)に文科大臣賞  
バース積載土量計測システム開発(宇部日報:27日)
- ◆ **山大の起業支援施設1周年**  
意識改革なお途上 期待先行、甘い認識  
(朝日:29日)



発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場

# 山口大学公開講座

平成16年度受講生募集のご案内



## お申し込み・お問い合わせ

山口大学エクステンションセンター

〒753-8511 山口市吉田1677-1

TEL(083)933-5150

FAX(083)933-5154

E-mail: [extension@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:extension@yamaguchi-u.ac.jp)

## お申し込み方法

- ①講座名②名前(フリガナ)③年齢④住所⑤職業を明記の上、郵送・電話・FAX・Eメールでお申し込みください。
- 受付け後、振込み用紙をお送りいたしますので、受講料をお振込みください。振込みの確認後、受講証を送付いたします。

〒753-8511 山口市吉田1677-1

## 平成16年度公開講座のお知らせ

講座名	対象	開設期間	時間帯
やまぐちサタデー カレッジ2004 日本文化コース 「古典文学への招待」	市民一般 学生	5/8～6/26 (毎週土曜 計8回)	14:00～15:30
やまぐちサタデー カレッジ2004 やまぐち学コース 「山口県の遺跡」	市民一般 学生	5/8～6/26 (毎週土曜 計8回)	15:40～17:10
やまぐちサタデー カレッジ2004 外国語学習コース(英語) 「英文法再入門」	市民一般 学生	5/8,15,29, 6/5 6/12,19,26, 7/3	15:40～17:10
経済学部創立100周年記念 病院経営の実情と問題	市民一般	5/14～6/11 (毎週金曜 計5回) ※5/21(金)のみ 20(木)に変更	18:30～20:30
経済学部創立100周年記念 地域社会とジェンダー	市民一般	5/14～6/18 (毎週金曜 計6回)	18:30～20:00
新エネルギーと省エネルギー	市民一般	5/15～7/3 (毎週土曜 計8回)	10:00～11:30
経済学部創立100周年記念 少子化社会における法と経済	市民一般	6/3～7/8 (毎週木曜 計6回)	18:00～20:00
小麦栽培から始めるパンづくり 後援:県農業試験場	市民一般	6/2, 8/25, 11/10	10:00～15:00
女性のためのナイト・カレッジ (いきいき健やかライフのための健康講座)	宇部近郊に在 住する女性	7/6～8/3 (毎週火曜 計5回)	18:30～20:00
理科実験講座	小・中学校 教員	8/9～8/10	9:00～16:00
木工入門	市民一般	8/20～8/22	8:30～12:30
中高年の健康講座	市民一般	9/1～12/25 (計7回)	19:00～20:30
ヒューマン・スクール 衣・食・住 ～暮らしと文化～	市民一般	9/29, 10/13, 27, 11/10, 24, 12/8	13:30～15:00
経済学部創立100周年記念 21世紀の経済・社会を展望する	市民一般	10/12～11/16 (毎週火曜 計6回)	18:30～20:00
やまぐちサタデー カレッジ2004 異文化交流コース 「古代中国を語る 甲骨文・金文・木簡・竹簡・伝来文庫」	市民一般 学生	10/9, 23, 11/6, 20	14:00～15:30 15:40～17:00
やまぐちサタデー カレッジ2004 現代文化コース 「哲学の思考実験」	市民一般 学生	10/9～11/27 (毎週土曜 計8回)	14:00～15:30
やまぐちサタデー カレッジ2004 外国語学習コース(韓国語) 「韓国語初歩の初歩」	市民一般 学生	10/9, 23, 11/6, 20 11/27, 12/4, 11, 25	15:40～17:10
中高年の健康づくりのための運動指導 講座	地域で中高年者 を対象に運動指 導を行っている方	11/6～11/7	13:00～16:00



今年度は上記15講座を予定しております。

詳細については、お気軽に下記までお問い合わせ下さい。(HPにも随時情報を掲載いたします)

〒753-8511 山口市大字吉田1677-1

国立大学法人山口大学 エクステンションセンター

電話 083-933-5150

## 原稿をお寄せ下さい

広報誌は、学内だけでなく、山口県内の高校以上の教育機関、地方自治体及び主として、中国・四国地区の企業等学外の約500の機関に配布します。

### ア. Q&A欄について

山口大学についての質問をお寄せください。質問は、お名前、所属、職(学生の場合は学年)、年齢を付して文書でお願いします。Q&A欄に採用させていただくときは、字数などの関係で文章を一部修正させていただくことがありますのでご了承ください。学外からの質問を歓迎します。

#### イ. 催し物について

公開講座、学会、研究会等の開催計画がありましたら、日時、場所、名称、責任者氏名、所属、電話番号などをお知らせください。

#### ウ. 「私の授業」「私の研究」「国際交流」「山口大学の将来についての提言」など

「私の授業」「私の研究」では、日頃おやりになっていることを、高校生にもわかるように、やさしく述べていただければと存じます。また、昨今、大学の将来についての関心が高くなっています。そこで、山口大学の将来のあるべき姿について、学内外から原稿をいただければ幸いです。建設的なご意見を期待します。

#### 【執筆要領】

上記ウについて、執筆要領は次のとおりです。

1. 原稿(図、表を含む。)は40字×40行で、できるだけパソコンでお願いします。第1行は題名、2行目は氏名、所属部局名、研究室あるいは講座名、職、本文は4行目から始めてください。本文は3～4に区分し、小見出しをつけてください。

読者が連絡や質問をされる場合に便利かと思しますので、お差し支えなければ、原稿の末尾に研究室などの電話番号を括弧書きにしてください。

原稿は次の枠内のような形になります。

パソコンを用いない場合は、400字詰原稿用紙4枚以内で、パソコンの場合の要領に準じてお願いします。

パソコンで原稿を作成された場合、お差し支えなければ原稿と一緒にフロッピーをお貸しいただければ幸甚に存じます。

第1行	題名
第2行	氏名、所属部局名、研究室名、職
第3行	(空白)
第4行	本文始まり
.	
.	
第40行	本文終わり
	(TEL _____)

2. ご自分が写っている写真を1枚と本文に関連する写真も添付してください。研究や授業の場面の写真を歓迎します。

原稿には締切期限を設けません。適宜、下記までお送りください。そのほか、種々の問い合わせも下記まで。また、原稿はE-mailで送っていただいても結構です。

〒753-8511

山口市吉田1677-1

国立大学法人山口大学総務部総務課

広報・調査係長 後藤 明利

☎ 083-933-5007 FAX 083-933-5013

E-mail: SH011@office.cc.yamaguchi-u.ac.jp

## 編集後記

いよいよ4月1日から法人化された山口大学がスタートしました。

今号は、国立大学法人化後の最初の号ということで、山口大学が今後力を注ごうとしている東アジアを中心とした国際化に焦点をあて「国立大学法人山口大学の“国際化”」の特集テーマを設けました。山口大学自らが建学精神に基づき独自の中期目標・計画の設計図をひき、内外からの評価を受けつつ、地域に開かれた高等教育機関として成長発展（淘汰）していかなければなりません。魅力ある教育カリキュラム、素適なキャンパスライフ、等々本学がどのような優秀な人材を育成しようとしているかを目に見える形で呈示していくことが問われています。

将来性のある優れた若者に多く集まっていたくためにも、山口大学広報戦略委員会に課せられた使命は大きいと痛感しています。本誌の表紙の絵をノスタルジックなものに刷新してみました。山口大学広報誌としてのYUインフォメーションの存在感を今まで以上に周知してもらえるようにと努力の一環です。是非とも、学生諸君のみならず教職員の皆さんからのこれまで以上の建設的な御意見をお待ちしています。

(武藤 正彦)

©山口大学ホームページ<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

## 山口大学広報第七十一号

平成十六年五月二十一日発行

編集発行 山口大学広報戦略委員会

(総務部総務課)

住所 山口市大字吉田一六七七一

電話 (083) 933-5007

FAX (083) 933-5013

E-mail : SH011@office.cc.yamaguchi-u.ac.jp

印刷 有限会社三共印刷

### 広報戦略委員会委員

大坂 英雄 (企画広報担当副学長)

小谷 典子 (人文学部 広報担当副学長補佐)

坪郷 英彦 (人文学部)

杉山 緑 (教育学部)

藤井 大司郎 (経済学部)

君波 和雄 (理学部)

武藤 正彦 (医学部)

溝田 忠人 (工学部)

山田 守 (農学部)

長畑 実 (大学教育機構)

瀧本 浩一 (産学公連携・創業支援機構)

糸長 雅弘 (学術情報機構)

杉井 学 (学術情報機構)

國守 勝巳 (事務局)

仁科 幸雄 (事務局)